

発展 ルネサンスと「大航海」の時代 学習指導要領の「内容」の(4)ア「戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航について理解させるとともに、その文化の伝来が我が国の社会に及ぼした影響について考えさせる」に示す内容を学習指導要領に示していない内容として取り扱っており、不適切である



ルネサンスと「大航海」の時代 16世紀の世界



95か条の論議を語るルター 1517年、ドイツ人のルターが、ローマ教会のありかたを批判する95か条の論議を発表し、宗教改革がはじまりました。フランス人のカルバンも、ルターの教えをもとにスイスで宗教改革をすすめ、「人が神に近づき、神に近づくことは神の恵みにかかろう」と説き、フランス・イギリス・オランダの諸国で宗教改革がはじまりました。



【春(プリマベラ)】 15世紀のイタリアの画家ボッティチェリの作品。15、16世紀にはレオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロなど、天才的な芸術家もあらわれ、すぐれた作品を残しました。また、14世紀のはじめ、ダンテはそれまでのラテン語と異なり、日常使われているイタリア語で物語『神曲』をあらわしました。

ルネサンスと宗教改革

都市が発達した14世紀の北イタリアでは、イスラームやギリシャ・ローマの文化への関心が強く、キリスト教会の教えにとらわれない自由な雰囲気がありました。それまでの神を中心とした考えや封建制度のしくみから離れ、人間らしい生きかたをもとめ、合理的にものと考え、ギリシャ・ローマの文化を研究して芸術を復興させるうごきがありました。この新しいうごきをルネサンス(再生)といい、15世紀にはヨーロッパ各地にひろがりました。また、このようなルネサンスの人間を中心とした考えかたはヒューマニズムとよばれます。

ルネサンスによって、美術・建築・文芸などで新しい作品が生まれ、また自然科学も発達し、地動説や地球球体説がとえられまし

た。また中国から西アジアをへて伝えられた羅針盤・火薬・印刷術が改良されました。

このようなルネサンスのうごきのなかで、免罪符の販売などをおこなったローマ教会に対して、キリスト教や信仰のありかたをかえようとする宗教改革の運動がおこりました。

ルネサンスや宗教改革の歴史の流れのなかで、ドイツ、イタリアなどでは、日常で使っている言語で聖書や文学が出版されるようになりました。また、ヨーロッパは現在の国々

「大航海」時代

15世紀にヨーロッパの航海術は進歩し、アジアへの新しい航路やアメリカ大陸への航路が発見され、ヨーロッパの国によるアジアやアメリカ大陸への探検がさかんにおこなわれました。その影響で、アジアやアメリカの

「発展 ルネサンスと「大航海」の時代 16世紀の世界」は、「深める歴史6 ルネサンスと「大航海」の時代 16世紀ころの世界」というテーマ学習として、該当箇所におく。

深める歴史 6

ルネサンスと「大航海」の時代 16世紀ころの世界



【春(プリマベラ)】 15世紀のイタリアの画家ボッティチェリの作品。15、16世紀にはレオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロなど、天才的な芸術家もあらわれ、すぐれた作品を残しました。また、14世紀のはじめ、ダンテはそれまでのラテン語と異なり、日常使われているイタリア語で物語『神曲』をあらわしました。

◆ルネサンスと宗教改革

都市が発達した14世紀の北イタリアでは、イスラームやギリシャ・ローマの文化への関心が強く、キリスト教会の教えにとらわれない自由な雰囲気がありました。それまでの神を中心とした考えや封建制度のしくみから離れ、人間らしい生きかたをもとめ、合理的にものと考え、ギリシャ・ローマの文化を研究して芸術を復興させるうごきがおこりました。この新しいうごきをルネサンス(再生)といい、15世紀にはヨーロッパ各地にひろがりました。また、このようなルネサンスの人間を中心とした考えかたはヒューマニズムとよばれます。

ルネサンスによって、美術・建築・文芸などで新しい作品が生まれ、また自然科学も発達し、地動説や地球球体説がとえられまし



95か条の論議を語るルター 1517年、ドイツ人のルターが、ローマ教会のありかたを批判する95か条の論議を発表し、宗教改革がはじまりました。フランス人のカルバンも、ルターの教えをもとにスイスで宗教改革をすすめ、「人が神に近づき、神に近づくことは神の恵みにかかろう」と説き、フランス・イギリス・オランダの諸国で宗教改革がはじまりました。

た。また中国から西アジアをへて伝えられた羅針盤・火薬・印刷術が改良されました。

このようなルネサンスのうごきのなかで、免罪符の販売などをおこなったローマ教会に対して、キリスト教や信仰のありかたをかえようとする宗教改革の運動がおこりました。

ルネサンスや宗教改革の歴史の流れのなかで、ドイツ、イタリアなどでは、日常で使っている言語で聖書や文学が出版されるようになりました。また、ヨーロッパは現在の国々

◆「大航海」時代

15世紀にヨーロッパの航海術は進歩し、アジアへの新しい航路やアメリカ大陸への航路が発見され、ヨーロッパの国によるアジアやアメリカ大陸への探検がさかんにおこなわれました。その影響で、アジアやアメリカの

❑コロンブスの西インド諸島到達 コロンブスは、スペインを船出してから70日間もかかって一つの島に到達しました。かれらはそこをアジアの一部(インディアス)であると考えました。いまでも、カリブの島じまを西インド諸島とよび、先住民をインディオ(インディアン)とよぶのはこのためです。

❑新航路の発見 大西洋の航海、探検事業に先行していたスペインとポルトガルは、熱い思いによって、世界における活動範囲を分けあいました。その結果、アメリカ大陸の中部のほとんどがスペイン領となりました。つづいてイギリス、フランスなどの国が成長しました。ヨーロッパの東にはイスラームの国であるオスマン帝国が、北アフリカから黒海沿岸にかけて、広大な地域を従えるようになりました。東アジアでは、明が広大な領土をもち、周辺の国と交易をおこない、遠く東アフリカまで使節を派遣するなどしました。



産物がヨーロッパに伝わり、ヨーロッパの文化やキリスト教が世界に伝えられました。

アメリカ大陸では、先住民の国がヨーロッパの国にほろぼされ、植民地にされました。

16世紀になると、スペインやポルトガルがすすめた探検によって、アフリカ大陸やアメリカ大陸の全体のすがた、東アジアが知られて、世界全体のようなすがたがわかるようになりました。これらの情報から、世界全体をあらわした地図が描かれるようになりました。



ガリレオ=ガリレイの宗教裁判 かれは望遠鏡をつくって天体を観測し、コペルニクスの地動説を発見させ、実験や観測にもとづくさまざまな業績を上げました。しかし、「神の教えに反する」として宗教裁判にかけられ、有罪となりました。その際「それでも地球はうごく」といったと伝えられています。

❑コロンブスの西インド諸島到達 コロンブスは、スペインを船出してから70日間もかかって一つの島に到達しました。かれらはそこをアジアの一部(インディアス)であると考えました。いまでも、カリブの島じまを西インド諸島とよび、先住民をインディオ(インディアン)とよぶのはこのためです。

❑新航路の発見 大西洋の航海、探検事業に先行していたスペインとポルトガルは、熱い思いによって、世界における活動範囲を分けあいました。その結果、アメリカ大陸の中部のほとんどがスペイン領となりました。つづいてイギリス、フランスなどの国が成長しました。ヨーロッパの東には、イスラームの国であるオスマン帝国が、北アフリカから黒海沿岸にかけて広大な地域を従えるようになりました。東アジアでは、明が広大な領土をもち、周辺の国と交易をおこない、遠く東アフリカまで使節を派遣するなどしました。



産物がヨーロッパに伝わり、ヨーロッパの文化やキリスト教が世界に伝えられました。

アメリカ大陸では、先住民の国がヨーロッパの国にほろぼされ、植民地にされました。

16世紀になると、スペインやポルトガルがすすめた探検によって、アフリカ大陸やアメリカ大陸の全体のすがた、東アジアが知られて、世界全体のようなすがたがわかるようになりました。これらの情報から、世界全体をあらわした地図が描かれるようになりました。



ガリレオ=ガリレイの宗教裁判 かれは望遠鏡をつくって天体を観測し、コペルニクスの地動説を発見させ、実験や観測にもとづくさまざまな業績を上げました。しかし、「神の教えに反する」として宗教裁判にかけられ、有罪となりました。その際「それでも地球はうごく」といったと伝えられています。